廿六日夕刊

磐城新聞

休刊　大祭日、第一第三日曜
定價　壹ケ月五十錢、壹枚二錢、郵稅十錢
廣告料一行廿錢（指定廿錢增）
發行兼編輯印刷人　遠沼龍輔
發行所　福島縣平町田町拾六　磐城新聞社　電話五六四番

痔の最高內服藥　ダイサン錠
鼻のクスリ　チクノール錠
平町五丁目角　山野邊藥局

論壇

無我の世界

死の恐怖はまだ感覺した事がない。想像によつて感する恐ろしさはある。けれども、それよりも生の恐怖といふことにいたく心を惱苦の底へと突き落とされる。それは自分が周圍に敗れてゐるからだと云ふ事は判つてゐる。

◇

が、強くなる事は周圍を超越する事だ。それは自分としては行ひ得ざる重大事だ。何となればそうする事は自分の未來の希望を限定してしまふか、短縮してしまふか、或は折角哲學的思索と藝術的情緒よりなる心的統一を以て科學文明の中に闘ひを續けて居樣とする心持を極端に凡化してしまひはしないかと云ふ懸念があるからだ。

◇

金を集めて一生安穩に暮すか…といふ心持も浮べる事もあるがそう云ふことは出來ない性格であると思ふ時、その時さびしくなる。依然として安い月給に滋々と通つてゐる。高級事務員にはなりたいが、なれないと云ふさびしさがそれだ

◇

活動から逃れて靜中なる生活に入ることは、苦しみから逃れて安らかな死に落ちると同じでそれにも堪へがたい未練がある。貧弱の體軀に依つて尊い魂を守つてゐるは、いた〱しい事だ。

◇

すこやかな肉體を把持して、せめて一瞬時としても魂を大船に乘せて見たいと思ふが、それも結局は不可能らしい、詮ずるにすべてを忘却の世界に考慮のない世界に住んより外ない。

（山田龍夫）

梅の實の盛りに

梅干の用意

美味しいその作り方

新らしい梅の實が出初めました。奥樣方はそろ〱梅漬の御用意に取りかゝられてよろしいでせう、梅干を漬るには先づなるべく青くて堅い、まだ熟し切つてゐないものをよく水洗ひし一晩程水にしたしておきます。こうすると漬上がつてから種子離れがよいのです それから翌朝水からあげてよく水氣を去り一升の梅の實に對して鹽三合の割合で初め容器は桶でもかめでも瓶でよろしい、その底に適宜の鹽をふつてそれに一ならべに梅の實を入れ、その上に又鹽をふつて梅の實を一とならべ順々にかさねて上から蓋をします。そしてそれに重石をするのですが初めのうちは比較的輕いものがよく日のたつに從つて重い石にします。そして七月の初旬赤紫蘇の出るころまでその儘にしておきます、そしてそのころになつたら、漬梅に約三分の一位の分量の赤紫蘇をよく水洗ひしてから、鹽もみをよくして灰汁拔きをしますがこの時紫蘇の赤黑い汁を充分にぬきませんと梅の實と一しよに漬た時梅干が黑すんでしまひます。そこで前の梅の實を漬入容器の蓋をあけて梅の實からすつかりしみ出した白酢を三分の一程殘してすくひあげ後へ鹽もみした赤紫蘇をのせて再び蓋をし今度はなるべく重い石をのせて土用になるまでそのまゝにしておきます。土用に入つたら上天氣な日を選らんで眞赤にそまつた梅の實を容器から取り出して葭簀のやうなのを上にならべ陽にほします四、五日ほせばそれでよろしいのですが昔からのいひ傳へによりますと三日間を日光にあて、三晩を月夜の夜露にあてると味とがよくなると申します。そして干終つたらもとの容器に入れ、外氣にふれないやうに蓋をしておけばよろしいのです、この梅干の漬方については昔からいろ〱の云ひ傳へがありますが、そのうちのおもな例をあげますと女が月經のときは必ず梅の實を取り扱つてはいけないこと、又申年のつけた梅の實は非常にたふといとされ、申年には澤山漬て十年も二十年も殘しておき病氣やお産をしたときにのみたべるといふやうなことがあります。それから赤じそを入れるときはすくひ出した白酢は壜にとつておき、夏季の惡病が流行つた際や旅行をするときに毎朝少量づゝ飲むとよいと申されてゐます。

× ×

酒酢の作り方に、まづ梅の實一升に氷砂糖一斤と味淋（あるひは燒酎でもよろしい）二合を加へて容器に入れておきます、こうして半年位たちますと美味しい梅酒ができます又梅の實と洗砂糖だけでつけてたきますと、子供むきの飲みものが出來ます、これらは梅干と同樣何年でも保存してたくことができ又古いものほど美味しいと申されてゐます最後に分量について一寸申しあげますと、五升の梅の實が約三百五六十つぶ前後ありますから家族の人數によつて量を定めるとよろしいと申します。

文藝欄

彼の家に

荒川春郎

静かで清楚な郊外に
綠樹と綠草を穿きて立つ家
六月の太陽は強く明し
紺碧の大空へ
地殻は一せいに綠焔を揚ぐ
さゝやかに見ゆれど
明るき世界に息づく新しき彼の家
色彩鮮かなる幟は翩翻と
ひるがへり
金鱗の吹流しは青空を游ぐ
野邊の陽炎を越へて
我が心は彼の家を恩ふ
彼の家に、彼の家に
善き父ぞ住まん
善き母ぞ住まん
限り無き愛撫の地上に伸
びてゆく
善き玉の男の子ぞ住まん
愛らしき紅葉ばの手もて
彼の家に幸福の泉を掻き
涌かす
あゝ善き玉の男の子
郊外の静かなる彼の家に
善き人を温く抱く彼の家に
祝福あれと祈る
我がふるをいし心の
つゝましき合掌を捧げん

明日の吉凶

舊暦五月十日　新暦六月廿七日

▲一白　左右より支持せらるれども目上に緣薄き日▲二黑　一家足並を揃へ決心堅く進めば吉日たり▲三碧　氣分を新にし奮闘すれば擡頭し來るべし▲四綠　蟻が餌を運ぶやうに朝からたゆまずはげむべし▲五黃　事無かれ主義を以て徐に進む方がよき日▲六白　心を高潔に外に對して寛大なれば吉に向ふ▲七赤　次第に廣大なる運に惠まるゝ日勤儉が第一▲八白　波瀾を避け緩みを見て進む樣にすれば無事▲九紫　次第に慶福に向ふべし博愛の美風を忘るゝな

講談

闇に閃く男達

（124）

高田涙川作
尾崎雪廊畫

村雨金五郎の俠名

佐々木代官は此の塲合正春の言に從はねば切腹となるは間違ひないから返す言葉も出ぬ

「いかにもその儀は承知いたした」

佐々木は低頭せんばかりである

「それが御承知とあればこの上、彼れこれ申すことは御座らぬ、拙者等は倘一兩日當地に滯在いたしたれば、その中に斷行されたい、それを見定めし上、江戸表に取引き申す、いや大いにじやまいたした」

正春は言葉を殘して宿へ引き取つた、佐々木代官は切腹が助ることゝてその日のうちにおしげに暇を出し火柱源左工門の目明かしの役目を取り上げ不都合の所業ありとの名目で松坂の町を放逐した、正春は佐々木代官が改悟の實をあげたからにはもはや松坂に用事なく江戸へ歸ることゝなる、蔭風長吉も是非同行を望むのでその意に任せて長吉をも伴ひ一同木更津藤兵衛の宅に着す、ここで長吉は藤兵衛に身内となる盃を貰ふ

正春は一先づ郷里小濱に立ち歸り手續を以て仇敵堀内小源太を討ち取つた顛末を屆け出る時の藩主も正春の孝心劍勇を賞され父兵太郎の食祿五百石に五十石を增され五百五十石で歸參を仰せつけられた

金五郎はいよ〱俠客として世に立つことになり、父から讓られし名劍村雨丸から考へ村雨金五郎と改め藤兵衛の娘おきぬと夫婦になり兩國回向院の所に居をつくり俠名を天下にうたはれてゐた、弓は袋、大刀は鞘、世は太平の五代將軍綱吉の在世時即ち元祿時代である、久しく太平のつゞいた後のことであつたから質朴剛健な武士のふうは全然すたり、武士も町人もぜいたくになり遊蕩三昧にふける、衣服なども派手をきそひ毎日毎夜着かざつて今日は遊山、明日は芝居見物と浮かれ歩き大平の夢をむさぼつてゐた、この時にあたりこれ等武士町人を惰眠よりさました一大快擧があつた

それは元祿十五年十二月十四日、前の播州赤穂の城主淺野內匠頭長矩の家臣大石內藏之助良雄等初め四十七名の義士が主君の仇を報ぜんと本所松坂吉良義英の邸に亂入し、首尾よく怨みを晴らせし出來事、これよりさき前年元祿十四年春三月淺野長政の昔より名家と云はれた長矩も一度ならず二度、三度しかも公衆の面前に於て大切な役目を蒙つた身に恥辱を與へられ、もはや堪忍なり難く松の廊下に於て吉良義英をたゞ一刀と斬りつけたが殘念にも梶川與惣兵衛の爲めに抱きとめられ、相相手には微笑を負はせしまゝで遂にその身は切腹家は滅亡し長矩の家臣は四散したこの大事件は江戸に起つたことであるから評判は一層高くいろ〱な說が立つ、こりやさてもこのまゝに濟むきづかひはあるまい、先づ仇討ちをするであらう、イヤ相手は高家の筆頭、しかもその背後には上杉家が控へてゐるから決してそんなことは出來ない、二說にわかれ盛に論議された金五郎もこの說を耳にして亡父の遺言には一度淺野家の恩惠を受け殊に城代大石殿には一方ならぬ世話を蒙つたよつて機會あらばその恩返しをせよとある、金五郎はかね〲大石殿に面會し亡父の恩義を返したいと思ひ居りしことゝて淺野家の騷動は一層強く耳にひゞいた、この非常時に際し報恩するにしくはなしと考へ、その後の大石內藏之助の動靜を知ることにつとめてゐた

スター好　中形
粋な　手中
着尺モスリン　本場カヤ
平　龜田屋　電五七

廣告

平町田町通り
磐城病院
電話一一四番

平町田町
高久病院
電話五一三番

パイロット
高級萬年筆
二重大懸賞附
太平洋横斷
大飛行應援販賣
三・〇〇以上
一等賞
金側腕時計
空籤無シ
六月末日限
特約店
平公園前
佐々木商店
電話二三三番

公告

本郡の舊家、寺社、研究家に急告
御大典御成婚奉祝紀念獻上の爲

磐城史料圖版集成刊行
（凡て東京にて謹製）

今上陛下曠古の御卽位式と本縣人松平節子姫が畏くも秩父宮殿下と御成婚を遊ばさるゝ御盛事等が孰れも今秋御擧行し給へるに對し奉り古來陸奥文化最初の本源地と爲す我が磐城卽ち現代石城郡の所謂歷史寫眞帳なるものを生等淺學をも顧みず此際に於て謹纂し之を獻上し齊しく郷土の實在をして天覽、臺覽の光榮に浴すべく冀ひ聊か本郡の國民的誠意の一片を儀表し度き希ひである。

仍て本郡各舊家、寺社、研究家の所藏する古遺物並に文書、家系譜或は學者偉人、功勞者、名工並に名人等の遺墨肖像及び其の作品等を至急寫眞材料に御貸與願ひたし。費用一切申受けず。御持參下されば卽時複寫若しくは撮影して返却す。

〆切本月末日限り！

申込所　平町白銀町十一番地（電話八〇九又は七番・三〇一番）

謹纂並に解說者
『磐城文化史』御買上の光榮者
諸根樟一
諸橋元三郎
草野順平

此の際各自所藏資料の提供を吝みて萬代に悔ゆる忽れ！

開店御披露

氣分好い食堂ができました、暑い夏の夜御散策旁々是非一度御來店の上御批評を
經營は大塚肉店故原料豊富、是非一度御試食の程を
女給數名入用

カフエー幸樂
平町六丁目電五（三九番）

丸形セイコー腕時計普及宣傳特賣

賞品付セイコー腕時計大賣出し
期間昭和三年三月十五日より七月一日迄
一本も空籤なし

示時正確

ボリン及サック付金拾三圓均一

賞品
一等　金壹百圓（復興債券）五十本
二等　金五十圓（同）百本
三等　金拾圓（同）二百本
四等　金五圓（同）五百本
五等　精工舍製ニツケル丸形机上時計壹個　四萬九千餘個
賞金總額金拾萬弐千九百圓餘賣切ぬ內御早く御買上を乞ふ

特約發賣店
平町三丁目
大谷時計病院
電話一九番

平町田町（電四七五）
赤心堂病院
外科泌尿器科　新妻由五郎
産婦人科　野秋善直
內科　小林四郎
藥局X光線　木下寅市

釀造元
銘酒　清世界
各炭鑛御用達
石城小名濱町
清水屋
小野晋平
電話六番

外科新設
外科專門　部長　藤本順
診療開始
産婦人科　院長　木村寅次郎
從前通り診療
平町新川町
木村醫院
電話一六四番

エロープレイン　横斷模樣
燃ゆる國民の赤誠を載せて
太平洋横斷飛行　應援販賣
人氣集まる陳列に
十九日ヨリ販賣
三井呉服店

小名濱商港修築費 國庫補助百七十八萬圓

明年度の新規事業中 省議に要求決定

内務省土木局の明年度豫算新規事業の港灣改良費として省議に要求することとなつた内本縣小名濱の分は修築費國庫補助百七十八萬圓繼續年度六ケ年、初年度額六十三萬圓と決定した

廳舍内に 雨土砂降り

梅雨季の平署

取扱事務の繁忙を極めつゝある平にたいしては恐らく縣下第一と行かずとも第三位に下らぬ平警察署も大雨にあつて更にだらしなく先づ階下梯子段際の電話室に雨もりがする外階上司法調室の内鈴木司法主任室にも遠慮なく雨もりがするばかりがこの部屋などは雨がもるのを通り越して降るのに等しくして修繕たる有様でテーブルの前は荒蓙を敷き往時のお白洲と言つた場面を描いて取調をしてゐるがそれでも鈴木警部補殿すつかり被告に同情して書類のぬれざる限り自分が雨もりのする方へ宿かへして事務を執つてゐるなど大雨ごとに見せつけられる悲慘なシインである

四倉の 繭市況

今期一萬六千貫

四倉繭市場廿五日取引貫數は二百六十貫で黄繭の出廻りは絶へ白繭最高七圓五十六錢最底六圓二十四錢馴七圓十錢で開場以來廿五日迄に一萬五千八百貫の出廻りがあり昨年に比し九千貫の増加である

小名濱灣頭を壓する 軍艦五十鈴の雄姿

來月簡閱點呼の際に 一般に縦覧をゆるす

來月十五日簡閱點呼執行小名濱灣外へ十四日來航投錨して點呼終了後十六日午後まで海軍の任務たる海上防備智識の普及すべく、一般の參觀を許す事となつた二等巡洋艦五十鈴は極めて新しき造艦技術によつて大正十二年八月浦賀造船所にて竣工され當時海軍大佐堀井悌藏氏を艦長として進水式を行はれた名も伊勢神宮鎭座まします五十鈴川に因んで命名された軍艦で艦の長さ一五二、四〇米艦の幅一四、二五米、吃水四、八四米、排水量五五七〇噸速力三三ノット乘員數約四〇〇人、十四糎砲、七門、八糎高角砲二門、機銃二門、水雷發射管八年式八門を有する艦体であるがその任務としては主隊の耳目手足となつて輕快に活動し主隊をしてよく戰闘の目的を遂成せしむる使命をおびてゐるのでこの種の艦は速力の増大してゐるのと燃料を多量に積載して遠距離に活動することが必要で攻擊力や防禦力は戰艦巡洋艦に比較すれば極めて薄弱であるがその使命任務たるや重大で今これを列擧すれば敵の所在を捜査偵察する外敵艦隊を發見した場合これを見失はぬ樣觸接尾行し海面の警戒敵情の通報敵の重要なる交通線の脅威通商破壞通商の保護その他戰場における敵の驅逐隊潜水隊が味方の主力部隊を襲擊せんとするを警戒擊壞し更に味方驅逐隊が敵に向つて襲擊のため驀進する擁護したり又自ら敵の主隊に向つて水雷攻擊を決行したりする重要艦種である

小名濱商港と平小鐵道問題 の將來〔三〕

各省陳情より歸つて

小名濱　小野生

◎十九日午前十時、一行に石射代議士宅に參集した此時郡南の實業家金成氏も見え、同道を願つて一行に加へて貰つた、兎も角大藏大臣官舍に尋ねた、首相官邸に閣議とあつて不在、然らばと云ふので首相官邸に尋ねた、來邸の筈の三土藏總、亦見えぬとの事、來邸を待つ、何時もながらの訪問者は多い、待つ數分大藏大臣の來邸を告げて來た、石射代議士は玄關に迎へ面談の結果午後二時と官邸にて遇ふと云ふのであつた

◎午後二時前に内務大臣官舍に尋ねたが、閣議で不在、何れも午後として政友會本部に行つた、堀切代議士に遇ふて盡力を頼む、堀切代議士の先年の口調は小名濱問題の解決は代議士を出すにありと云ふたその結果、代議士を出し、數に於て然かも反對黨を凌いだ點から云ふて、是非實現に努力して貰ひたいものだと一言を報い氏の奮起を促した金成氏の案内で東京會館に晝食會を催し、肉デーと來て喰い初めた西洋式の會館は中に這入つて驚いたのは純日本式の室が幾つもある一隅の裡に宮城を拜し得る地點で、涼風肌を撫でゝ心地のよい事此上もない喰道樂の一行飽食を、鼓擊の体であつた、午後二時藏相官舍に尋ぬると八田參與官も居合せ雜作もなく陳情の機會を與へて呉れた、藏相は小名濱の問題なれば「地元より政府の方が心配して居る、一切心配しに提案に理屈はない」と昨年の陳情に比すれば實に氣持能き挨拶を聞く事を得た

◎政友會内閣にして其政策とする所の、産業立國策たるべき港灣修築を鈍ふる樣では政黨内閣の價値なしと見た通り、藏相の肚裏既に一點疑ふの餘地なし、提案を察知した一行は永居を避け、辭して内相官邸を尋ねた、八田代議士亦一行に加へられた、宮澤秘書官は一行をして内相に通じ第一應接室に待つ事三十分、宮澤氏の案内で内相室に於て陳情をなしたのであるが内相は「土木の仕事は本省の眼目である、殊に産業開發の意味に於て港灣の修築は先決問題である、港灣に就ては既に豫算の編成が出來てる筈だ、決して心配に及ばぬ」と截然としての提案を明言して居る、内相就任以來、現内相、大馬力を拂つて政策實行の爲めに苦心して居る、茲に初めて民意を容れる政府の方針も判明し、難有御禮を述べて引き下つたのである

◎以上の經過より見て、港灣問題の實現可能のものは言ふまでもない、唯之を案するとせば、政策遂行に必要なる與黨の數そのものである、現在の處より見て五十六議會までには絶体的と思はるゝのであるが、政局の推移は、素人の窺知すべきものでなく唯地元としては政黨政派に超越した地方官の濃厚な政策によつて一日も早く實現し得る樣祈るより外に道がない、一行は兩省の方針を聞き四年度に於て三十有餘年間聲を嗄らして絶叫した商港問題も愈々實現の機、熱したるかを想像する時、感慨無量、本町將來に向つて、歡天動地、血汐の躍動するを禁じ得ざるものあるを覺ゆるのであつた　（未完）

手斧を揮つて 坑夫妻を慘擊

平署非常線を張り 犯人逮捕に努む

昨報赤井村大字高荻字家前福島炭礦坑夫山形縣西村山郡福原村生れ市川嘉三郎(四二)は廿四日午後十一時頃就寢中の妻同郡小川村生れ伊藤モン(三六)に突然支柱用の手斧を揮つて一擊を加へ面部鼻柱に長さ三寸深さ一寸左肩先へ長さ二寸深さ二寸左手指三本を切斷瀕死の重傷を負はせて何れへか姿を晦ましたが程經て長男忠(一五)が母の苦悶の聲をきゝつけて發見近所の者に告げたので大騒となり直ちに町署に急報すると共に被害者モンを炭礦病院に收容應急手當を加へてゐるが生命は危篤である急報に接した平署では鈴木司法主任持田刑事部長以下現場に急行直に犯人嘉三郎逮捕の活動を開始に至らなかつた尚兇行の演られた嘉三郎の宅は六疊一間の三間長屋で嘉三郎夫婦の間には長男忠外四男二女あり兇行のあつた夜は物凄い强雨であつた爲め隣近所にも知れなかつたものである

加害者は 小心者

或は發作的 精神異狀か

赤井村殺人事件の加害者嘉三郎は其の後平署で極力捜査を續け逮捕に努めてゐるが兇行の原因は一切不明で或は痴情關係ではないかとも言はれてゐるが嘉三郎は性來坑夫には珍らしい温厚な男であるが數年前に入坑中落盤の際頭部を强打した事がありそれ以後時に發作的に精神に異狀を呈してゐた關係から此の慘劇も或は嘉三郎の發作的精神異狀からではないかとも言はれてゐる尚嘉三郎の行方は平署で嚴探中だが兇行後附近の山間に逃込んだ形跡もあり前記の如く少心な男であるため山間で自殺を企だのではないかとも觀られるので平署では此の方面に搜査の歩を進めてゐる

ジョージ・桑歸朝

◇…今後のかれは

滯米十八年といふ長い間映畫界に活躍してゐたジョージ・桑君は去る二十七日横濱着のサイベリア丸で歸朝した、澤山な映畫土産を携えて來たのは云ふまでもない、今後彼は映畫界に活動するであらうか、果してプロダクションを起すか、何れかの會社に入社するかは今の所未定である。

マキノ映畫「大岡政談」市川小文治の越前守

ユナイトが 津田英學塾へ寄附

ラウル・ウオルシユ監督グロリア・スウオンスン主演ユナイテツトアーテイスツ映畫「港の女」は本年二月三日紐育ブロードウエイのリヴオリ座で封切以來非常な當りを取つてゐるがユ社紐育本社は初日の上り高の中から純益金千弗を東京麹町の津田英學塾に寄附して來た。

帝キネ便り

△高木組　藤間林太郎、小島洋々、歌川八重子、鈴木信子共演「虐げられし人々」を撮影中であるが近く完成

△大森組「一色男」を藤間、濱田、歌川、鈴木、高津、歌路共演で撮影中

△山下組　次回作品準備中である

△佐藤組　寶川延松、尾上紋十郎、松枝鶴子主演「珍魚」を完成し、次回作品準備中なり

△江後組「忍術藤栗毛」「天國篇」をオールスターキヤストで進行中

△矢内組「夕立勘五郎」を撮影中

△渡邊組　小國、深川組、次回作品準備中

△市川組「米箱用」を進行中

「地球は廻る」 完成近し

日活新劇部が最初の超特作品として製作してゐる川坂、岡部、内田、三氏綜合監督の「地球は廻る」(二十卷)は其後着々と進行されてゐるが五月早々に完成の見込みだといふ太陽系から地球の廻轉に移り遙かに過去百万年を遡り原始人類より始めて人類進化の經路をたどり現代に至り現代人の想像をなほ未來に走らせ地球の廻ると共に轉々進化限りなき人類の大生活を展開したものであつて第一部過去篇、第二部現代篇、第三部空想篇よりなつてゐる。

平署の黑表に載る 硬軟の不良六十名

娘もつ親は注意せよ 猪狩署長語る

そろ／＼薄物の刺激に物頗ましい頃となつて地方の昨今は不良老年や不良青少年少女が時を得顏に魔の手を延ばし始めて來た、目下平署のブラックリストに載つてゐる折紙付の不良連は約六十名を數へてゐるがカフエー荒しや呑代稼ぎの硬派は極僅少で大半は俗に軟派と稱する婦女を尾行したり美貌を餌に男を釣る一派で此等の常套手段は本町通りの夜店せ街や公園活動館等の人だかりする場所を選んでは巧みに甘い言葉でカモを釣るだけに喧嘩をしたり亂暴する硬派と異つて取締と頗るメンドウで平署當局は例年此等歡派一味の横行に手を燒いてゐるが猪狩署長は

「困つたものです若い男女の事だから有勝な事だと言つて幾分家庭から閉却されてゐる傾があるのではないだらうか不良青少年の多くなると言ふ事は各家庭が其の責めの大半を負ふべきものでせう不良連の横行は當局では取締る筈だが各家庭でも充分注意して欲しい殊に若い娘さんにはあまりケバ／＼しい薄物や挑發的な樣子をさせぬやうにして欲しい」云々と語つてゐた

四倉、植田 市場取引

出迴り終期の 廿四日分

四倉市場に於ける昨廿四日の取引は黄繭最高六圓五十五錢、最底四圓四錢、買馴六圓十錢で三百貫△白繭最高七圓四十一錢、最底五圓一錢、買馴六圓九十一錢で五百三十九貫合計八百三十九貫、五千五百五十二圓五十錢であるが更らに郡南組合聯合會公認の植田市場に於ける二十三日取引は白繭四百五十二貫三千百八十八圓三十二錢相場は白最高七圓三十三錢最底四圓六十錢買馴七圓四錢である

潰地買收決定

夏井治水工事に就て 各縣議の奔走

昨報の如く元石城郡役所會議室に開かれた夏井川治水工事に關する協議會は施工地點の潰地四反一畝歩買收決定後にあらざれば各町村負擔の寄附割當等もなす能はざる狀態にあるのでこの先決問題を速かに解決するため同地方選出の各縣議がその折衝に當る事となりこれが決定後査定を試みて寄附額その他の決定をなす事となり散會した

死刑か無罪か 白水五人殺判決

來七月三日と確定

疑問の血痕

稀有の大事件として世人を驚倒せしめた白水五人殺犯人鈴木治八郎(五五)は平支部において死刑の判決言渡しされたが同人は右言渡しを不服として宮城控訴院に控訴申立て中にして宮城控訴院にいて今日まで公判開廷さること前後七回にして證人を取調更に十九日宮城控訴院井上檢事、樋口受命判事は東京帝大教授石川博士と共に伊藤司法主任の案内で被害方に至り實地檢證をなし該事件の直接關係ある殺害場所の血痕飛散狀態について實質を調査鑑定するところあつた事は、既報の如くであるが鑑定の結果については嚴密に附されて居るが着衣に附着して居る血痕が治八郎が申立てゝ居るやうに痔疾の血であるとせば、事件はます／＼疑問に入り又現場の血痕と着衣の血痕が同樣であるとせば犯行は充分で如何に治八郎が犯行を否認するとも死刑は脫れぬところである果して血痕鑑定の結果治八郎の有利か不利か最後の裁きは來る七月三日午前九時宮城控訴院刑事法廷にたいて開廷されるがこれが成行き有罪か無罪かは世間一般より注目されて居る

福島博物會主催 海産動物講習

來八月十五日から五日間

小名濱港で

福島博物會は例年夏季休業を利用し郷土に於ける博物學の實地研究を目的として夏季講習會を開催し豫期の效果を收めて來たが本年は小名濱町なる縣立水産試驗場と共力し同地に於て海産動物實驗講習會を開き特に小學校理科資料として各種標本及びプレパラートを製作し一には海産動物の形態習性の實地研究を爲し更に海濱生物の實地調査を爲すことになつたが今回は特に日本魚學の泰斗田中博士の實地指導と之に對する有益なる講演ある筈で講習要項は左の如くである

△會期八月十五日より十九日まで五日間△場所石城郡小名濱町縣立水産試驗場△講師東京帝國大學教授理學博士田中茂穗△福島縣水産試驗場長飛塚高次で講習事項はプランクトンの採集と鏡檢並にプレパラート製作、海産及び海濱動殖物の採集並に標本海藻標本の製作、ウニの卵發生鏡檢で講習定數は三十名會費二圓であるが希望者は來る七月三十一日までに女子師範學校齋藤知賢氏宛に申込まるべく宿泊料その他は各自自辨のことであると尚ほこの講習には本縣教育會と石城部會が後援になつてゐる

濱三木炭 生産增

前年より一萬俵

濱三郡木炭同業組合の五月中の木炭生産檢査總數は合計十六萬三千四百四十俵で前月に比し三萬三千三百二十一俵の減で前年同期に比して一萬二千五千五百一俵の增であるその内譯は石城郡七萬九百十一俵双葉郡六萬八千七百四十五俵相馬郡二萬三千七百八十四俵であつた

佐藤氏の 告別式

廿八日午後二時 同村萬龍寺で

昨報赤井村の自宅に於いて逝去された前縣議草野順平氏の嚴父佐藤甚右エ門氏の葬儀は來廿八日午後二時自宅出棺同村寶集院萬龍寺に於いて佛式に依る告別式を擧げる事と決定した

平驛總輸出噸數

平驛貨物係りの統計による五月中の總輸出噸數は六千五百四噸で前月より千四百噸の減を示しそれに反し昨

かみくづ籠

◆品澤の小金サモがつかりした樣な顏付で「梅の湯」を出て來たからどうしたんだ顏色が惡いぞと言へば「妾し夏負けの質よ」近頃御飯がサツパリ進まないんですもの、今目方をかけたら一貫匁もへツてるんですワ……何貫あつたへと聞いたら「二十二貫百匁……」◆ツイ先頃一本に昇格した元の小猫、今は押しも押されもしない仲家の一寸助◆何處の御座敷に出ても半玉の時の樣に得意の二返がへしや安來節は勿論都々逸の一つも歌はずスツかりおとなしく座敷の片隅にモヂ／＼◆察しのいいのがナアール程違ふもんだと言へば「ンぢやないのよ／＼と眞赤になつて辯解」ちやどうなんだイと聞いたら妾しホントに嫌だツて言つたのにムニャ／＼—ベラボウ奴ドツチが違ふんでエ——

宇都宮にて

六月廿三日　MO生

◇坂本詞兄　昨日は御見舞もせずに出發して仕舞て甚だ相濟まぬ、然しその際星を通して約束した原稿は必らず屆けるよ早く知つたら前から原稿を送る事であつたらうに知る事の遲れたのを遺憾とする

◇坂本詞兄　病氣は氣持が第一だ、一に看護、二に醫藥だ、而して看護は患者自体の精神療法にまたねばならぬ、聞けば常に病氣にならなかつた關係で、氣を柔むそうだ之れがよろしくない、氣を柔むでも時節か來ないと治らぬ、氣を柔むだけが差引損となる

◇坂本詞兄　君は意を移すとある、健康に氣になつた、鬼門の便所を直し、名前まで代いようとした、君の將來は必らず吉でなければならぬ、然るにこの災難はと愚痴を云ふてはならぬ、病氣は人間を呪ふ魔である偶し魔に襲はれたので鬼門や改名の爲めでない、現在の居所は、採光通風の點に於て、慥かに天下無比だ、此處で病む君は寧ろ妥祈である、此氣分少くとも含味せよ

◇坂本詞兄　今夕夜行で仙臺へ廻り、更に福島に引返し二十六日歸平する、歸平すれば今度は枕邊に見舞ふ氣を慥か、精神的に療法を配れ(完)

平町南町
大和田醫院
電話一七〇番